

グローブシップ

# 企業の新型コロナ対策をテーマにオンラインで開催

## 第4回「お取引先セミナー」

グローブシップ(株) (本社・東京都港区、矢口敏和社長) は、毎年恒例となっている「お取引先セミナー」を今年はWeb上のオンラインで開催した。これは同社が2017年から毎年テーマを決めて顧客を対象に行っているもので、今年は新型コロナウィルスの感染が収束の兆しを見せていないことから、4回目となる今回は初のWebでの開催となった。セミナーは二部構成で、取引先企業に有益となる新型コロナウィルス感染症に関する情報が発信された。

初のオンライン開催にあたり、同社の矢口敏和社長は、自社の新型コロナ対策として



挨拶する矢口社長

本社や支店の勤務体制は在宅勤務や時差出勤を導入する一方、会議や打ち合わせは原則オンラインで実施することにより事務所内の密集度を極力下げたと説明。また、現場では感染者が出た場合に備えて可能な限り2班交代制としていることなどの具体策に言及した。

その上で「従来の清掃・設備・警備というサービスの枠組みにとられず、安心・安全に働ける施設環境作りのために感染防止や衛生消毒を意識したワークプレイスの丸ごとコーティングサービスなどのパッケージメニューの提供を考えている」と述べ、更に「弊社がコロナ禍を機に清掃サービスについて感

染予防・除菌・抗菌作業及びその成果の見える化の仕組みなどを取り入れた様々な提案をお客様に積極的に行っていく。この機に感染防止と高い水準の仕事と両立させ、もう一段高いレベルの会社成長させるきっかけにしたい」と語った。

と細菌の違いに触れた後、新型コロナウィルスの症状や感染経路、リスク因子、感染スピード、検査方法、対策などについて概説した。

続いては、明治安田健康開発財団保健指導グループリーダーの米澤裕子氏が「職場における感染予防対策」と題して以下のように講演した。

その後、第一部では初めに東京慈恵会医科大学客員教授の内田賢氏が「新型コロナウィルス感染症—今日そして明日—」と題して講演。冒頭でウィルス

そして今後流行が予想される季節性インフルエンザには早めの予防接種を推奨。新型コロナウィルスと季節性インフルエンザにはアルコール消毒が有効だが、通常の風邪には石鹸による手洗いが最も重要と強調した。その上で内田氏は「新型コロナの感染は、あと2年は続くと思われる。このパンデミックを引き延ばるために必要なのは健康と人との絆。健康でいるために各種の検診もキッチンと受けてほしい」と述べ、講演を締め括った。



内田氏

くことはせず、一文字書きの要領で拭き取りを行えば十分といえる。

個人的な感染予防対策としては、煙草は重症化のリスクを高める危険因子と考えられているため禁煙を強く推奨する。そして忘れてはいけないのがスマホやタブレットの消毒。無意識に何回も触れているので入念な消毒が求められる。また顎に付けているマスクは感染予防に意味がないばかりでなく、顎にいる細菌やウィルスを自分の口元に付けていくことになるため、非常に不衛生である。

多くの細菌やウィルスはモノを介して手から手へと広がり、それが感染拡大のきっかけとなる。人は1時間に平均23回も顔を触っている。そのため正しい手洗いを行うことでウィルスは確実に減らせ



米澤氏

勤務中は対面にならないよう注意し、対面になる場合はパーティションを設置して飛沫が最小限になるようにする。また他人と共有する物品を少なくするためペーパーレス化に取り組むことも大切。消毒液は60%以上のアルコール、または0.05%の次亜塩素酸ナトリウムを用いる。消毒は同じ場所を何度も拭

る。すぐに手洗いでき  
ない時はアルコールに  
よる手指消毒でも有効  
で、手や指を石鹸でし  
っかり洗うことが感染  
症対策の基本で最も重  
要な手段といえる。洗  
い残し部分として注意  
したいのは親指と指の  
間と爪。また手首まで  
しっかりと洗っていない  
という実験結果の報告  
もある。特に腕時  
計や指輪をつけている  
部分は1日1回帰宅し  
たら洗いたい。

消毒液にはスプレー  
タイプとジェルタイ  
プがあるが、手荒れの  
ことを考えた場合はジ  
ェルタイプの方が保  
湿剤が入っているため  
手荒れにくい。手荒  
れは消毒を消極的にさ  
せてしまうことがある  
ので注意が必要。密閉  
を防ぐためには換気も  
不可欠でドアノブに触  
れないようにするため  
扉は開放するが、プラ  
イバシーを守るために  
出入口ではカーテンを  
有効に活用したい。

そして最後に米澤氏  
は新型コロナ対策とし  
て「笑い」の効果も指  
摘。「笑顔はセロトニ  
ンという幸せホルモン  
を出す。子供は一日平  
均400回笑うのに対し  
て20代〜30代では約  
15回。70歳では2回し  
か笑わないという報告  
もある。かのマザー・  
テレサも『笑顔の方は  
無限大』と言っている  
」と述べ、コロナ禍  
の自粛生活の中でもス  
トレスを溜めないよう  
に大いに笑ってリラッ  
クスすることが大切と  
説いた。

グロブシップが目指  
す3つのミッション

続く第二部では、グ  
ロブシップ常務取  
締役の瀬本陽一郎氏が  
『Withコロナに向  
けたワークプレイス環  
境の構築』と題して講  
演し、次のように説明  
した。

コロナ禍は働き方と  
働く場所に様々な変  
化をもたらし、ワーク  
プレイスにも大きな要  
求性能が加わった。安  
全・安心・清潔への

ニーズが飛躍的に上が  
り、労働環境のクオリ  
ティーが重視される状  
況となっている。その  
ために感染リスクの低  
減、ワークプレイスの  
安全性担保と、その対  
外的な周知などがビジ  
ネスのポイントとなっ  
ている。

今までの清掃は見た  
目のきれいさ・清潔さ  
を品質基準としていた  
が、これからの清掃の  
ミッションは美観に加  
えて安全・清潔への重  
視が認められる。ワー  
クプレイスにおける感  
染リスクの対象には床  
と空間がある。床には  
ホコリが溜まり、その  
ホコリが菌やウイルス  
と一緒に空間中に舞い  
上がるため、双方にリ  
スクが存在する。

アメリカ感染症予防  
センターのレポートで  
は、中国・武漢の病院  
で施設内のウイルスの  
残存数が医療スタッフ  
の衣類やマスクより床  
と靴底の方が10倍〜30  
倍多かったと報告され

ている。これは床の除  
塵が、いかに重要かを  
物語っている。

そこで我々のミッシ  
ョンとしては、①日常  
的なダストコントロー  
ル②定期的恒常的な  
抗菌サービス③それら  
を「見える化」するた  
めの、頻度契約から品  
質保証への転換が重要  
となる。品質保証とは  
一定の清潔度を保証す  
るという意味で、我々  
の業務内容は一言で言  
い表すと「除菌抗菌ク  
リーニングメンテナンス  
サービス」という言

葉に置き換えられる。  
①については、昨年  
から導入しているソ  
フトバンクロボティク  
スのAI清掃ロボツ  
ト『Whiz』が人間  
よりも除塵力が優れて  
いることが分かっ  
た。『Whiz』の使  
用で空間の浮遊物の量  
は5分の1程度に削減  
されるとい比較結果  
も出ている。

②についてはコニカ  
ミノルタジャパンと組  
み、デルファイノケア  
社の商材『デルファイ  
ノ』を用意した。これ

は3種類の触媒を利用  
した空間丸ごと抗菌が  
可能な商材で、部屋を  
全て三次元施工するこ  
とによって約1年間効  
果が持続する。恒常的  
な抗菌作業をした上で  
日常的な除塵作業を行  
うことをパッケージに  
することによって感染  
対策は飛躍的に安全性  
が増すと考える。

また③については現  
在、数値化した診断  
結果を継続的にレポー  
トしようと準備を進め  
ている。具体的には  
ATPによる接触面の  
検査やパーティクルカ  
ウンターを利用した空  
間の浮遊菌の検査など  
を行い、皆様に安心と  
安全を具体的に感じて  
いただけるよう取り組  
みを進めている。

また③については現  
在、数値化した診断  
結果を継続的にレポー  
トしようと準備を進め  
ている。具体的には  
ATPによる接触面の  
検査やパーティクルカ  
ウンターを利用した空  
間の浮遊菌の検査など  
を行い、皆様に安心と  
安全を具体的に感じて  
いただけるよう取り組  
みを進めている。



講演する瀬本常務